

授 業 科 目 の 概 要			
(学校教育研究科高度学校教育実践専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	カリキュラム編成の実 際と課題	<p>各教科等に共通の「カリキュラムのとらえ方とその構成」, 「指導と評価の一体化」, 「個に応じた指導」, さらに総合的な学習等を含めて, 学習指導要領にもとづく具体的な教育課程編成の原理と方法について修得する。そのために, 授業では, 学校づくりの事例検討, 各教科や道徳・特別活動・総合的な学習の時間のカリキュラムや教材の開発演習とそれらの評価のための模擬授業等を実施する。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (15 廣瀬 隆司/10回) 学校現場での単元開発等に関する豊富な実務経験に基づき, 学校におけるカリキュラム編成の実際と課題について, 実務家の観点から考察を行う。 (3 村川 雅弘/15回) 教育課程論に関する研究成果に基づき, 学校現場で求められるカリキュラム編成とその原理について, 理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>集中 週4回4週間にわたり行う。</p>
	学校カリキュラムの開 発	<p>学校で実施される教育課程の開発の理論と方法を, 先行研究の分析や事例検討に加え, 文部科学省研究開発学校等の実際の学校現場における観察・調査, カリキュラム開発・運用の手法に関するワークショップ形式の演習等を通して理解する。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (23 服部 勝憲/5回) 学校現場でのカリキュラム開発・運営に関する豊富な実務経験に基づき, 学校カリキュラムの開発・評価の実際について, 実務家の観点から考察を行う。 (3 村川 雅弘/15回) 教育課程論に関する研究成果に基づき, 学校カリキュラムの開発・評価に関わる理論と方法について, 理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
	授業実践の分析と改善	<p>児童・生徒の学習効果(プロダクト)を高める授業過程(プロセス)を解明するための授業分析法(量的分析及び質的分析)を習得し, 学習効果を高める教師の教授技術を体系的に整理する。そのため, デモCDや模擬授業, 授業計画書等を対象とした授業実践及び分析演習, 模擬授業に対する授業合評会等を行う。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (4 小野瀬 雅人/15回) 授業心理学の研究成果に基づき, 授業分析・授業改善のあり方とその方法について, 理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (21 香西 武/5回) 学校現場での授業実践・授業評価等に関する豊富な実務経験に基づき, 授業実践の分析・改善の実際と課題について, 理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (38 梅津 正美/15回) 教科教育学(社会科)に関する研究成果と実際の学校での教職経験に基づき, 授業実践の分析・改善の実際と課題について, 理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>1クラスを2つに分割し, 平行して授業を行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共	学習指導の構成と展開	<p>「よい授業」の姿を多面的かつ構造的に理解し、それらを実現するための教授技量を修得する。具体的には、「よい授業」を形成する基礎的条件（マネジメント、学習従事量、授業の規律、授業の雰囲気）と内容的条件（目標・内容の押さえ方、学習過程の組織化、教材・教具の開発・工夫）について理解を深める。さらに、教授過程と学習過程をマッチングさせることを企図する立場から、様々な授業理論の実践化の方法について、授業のシミュレーション、集団討議等を通じて修得する。</p> <p>（チーム・ティーチング方式 / 全15回） （12 西村 公孝 / 15回） 教科教育学（社会科）に関する研究成果と実際の学校での教職経験に基づき、教科指導における授業理論の実践化について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 （30 梅野 圭史 / 15回） 教科教育学（保健体育科）に関する研究成果と実際の学校での教職経験に基づき、「よい授業」の構造と教授技術について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 （15 廣瀬 隆司 / 7回） 学校現場での各教科等の学習指導に関する豊富な実務経験に基づき、教科指導における授業理論の実践化について、実務家の観点から考察を行う。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>1クラスを2つに分割し、平行して授業を行う。</p>
通 科	学習評価の実際と課題	<p>教育評価について視野を広げるとともに、最近における学習評価のパラダイム転換について理解を深めた上で、学習評価の進歩、改善への実証的研究について、理論的、技術的な力量を身につけるようにする。そのために、本授業では、具体的な各教科等の指導場面を対象とした学習評価方法の分析、テスト場面のシミュレーションに基づくグループ討議、模擬授業を通じた評価方法改善策の提案等の学習活動を行う。</p> <p>（チーム・ティーチング方式 / 全15回） （7 川上 綾子 / 13回） 認知心理学・教育学の研究成果に基づき、学習評価の今日的課題や技法について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 （21 香西 武 / 5回） 学校現場での教科指導等に関する豊富な実務経験に基づき、指導と評価との関係や評価方法の改善について、実務家の観点から考察を行う。 （12 西村 公孝 / 10回） 教科教育学（社会科）に関する研究成果と実際の学校での教職経験に基づき、学習評価の今日的課題や指導と評価との関係等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>
目	生徒指導・教育相談に関するケースカンファレンス	<p>本演習では、受講者個々が学校現場で経験した不登校、いじめ、非行等の問題事象ケース、心の教育に関する教育実践など過去の生徒指導上の事例や教育実践事例についてワークショップ形式により集団討議で多角的に検討し、事例についての意味解釈を再構成することにより、生徒指導、進路指導、教育相談の資質の涵養と力量の向上を目指す。本授業を通して、生徒指導・教育相談におけるアセスメントや教育指導・援助の方法等に関する知識や技能の習得と教師としての省察を目指す。</p> <p>（チーム・ティーチング方式 / 15回） （5 小坂 浩嗣 / 15回） 教育臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、児童生徒理解の方法やあり方等の問題を精神分析的観点から考察する。 （27 井上 和臣 / 14回） 認知療法に関する研究成果や臨床経験に基づいて、問題行動のある児童生徒への理解と対処を精神医学の観点から考察する。 （36 粟飯原 良造 / 14回） 小児医学に関する研究成果や臨床経験の基づいて、問題行動のある児童生徒への理解と対処を発達的観点から考察する。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通	子どもの内面理解に関する実践と課題	<p>教師が生徒指導や教育相談を行う上で実際に役立つ根本的な考え方や態度を理解できるようになることが、この授業の目的である。常に、実践と理論、帰納と演繹を念頭に置き、子どもの心と教師の対応を中心に考えて行きたい。「生徒指導・教育相談に関するケースカンファレンス」の授業で問題になったテーマや、生徒指導上の時事問題を、積極的に取り上げ論じていく。指導法として、学生が主体的に授業参加できるようにグループワークや集団討議を取り入れる。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式 / 15回) (11 山下 一夫 / 15回) カウンセリングや生徒指導に関する研究成果や臨床経験に基づいて、生徒指導・教育相談における教師の指導援助のあり方や協働の考え方、問題行動への対処を心理臨床的観点から考察する。 (20 末内 佳代 / 6回) 学校臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、生徒指導における教師としての姿勢や態度を心理力動的観点から考察する。 (19 佐藤 亨 / 2回) 非行臨床や犯罪心理学に関する研究成果に基づいて、非行問題に関する指導援助のあり方を非行臨床的観点から考察する。</p>	<p>ティーム・ティーチング方式</p> <p>集中 週4回4週間にわたり行う。</p>
科目	学級経営の実践と課題	<p>これからの教師にとって、学級指導に関する力量を高めておくことは必須の課題となっている。本授業では教師の学級指導力を理論と実践の両面から形成することをねらいとする。そのため、まず学級経営の中核をなす集団経営に関する理論と技法を習得する。学級経営を実践する上で留意しておくべき課題ならびに年間を通しての学級経営の計画と実施について、実践事例などをもとにした学習を行う。授業では、グループワークやロールプレイなどを取り入れ、理論と技法を体験的に習得できるように工夫する。</p> <p>期待される効果： リーダーシップ、学級集団の診断、児童生徒理解に関する基礎理論と技法等、教師の学級指導力の基礎となる知識を習得する。年間を通じた学級経営の計画と実施、保護者との対応、学校経営との関連など、学級経営の主要な課題について、実践事例や留意すべき点を学習する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式 / 全15回) (1 佐古 秀一 / 15回) 学級経営、学校経営に関する実践的研究の成果に基づき、学級集団の診断と理解及び学校の組織的指導体制のあり方について考察する。 (18 久我 直人 / 15回) 現職教員としての実務経験を活用して学級経営の実践的課題及びその改善方略について考察する。</p>	<p>ティーム・ティーチング方式 演習は、受講生を5～6人のグループに分けて行う。</p> <p>集中 週4回4週間にわたり行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通	学校経営の実践と課題	<p>これからの学校リーダーには、学校内部における教職員組織の活性化とともに、地域・家庭との関係を構築していくことのできる指導力が求められる。本授業では、学校評価、学校の組織マネジメント、地域・家庭との連携、教育リーダーシップなどについて、実践事例や資料の分析を行ないつつ、それらに関する専門的な知識と実践的なスキルの習得を図ることをねらいとする。なお本授業では事例の検討等に関しては、6～10人程度の少人数を編成し授業を実施する（小集団演習）。また、実務家教員と研究者教員が、常時TT方式をとり授業を展開する。授業では、グループ討論やグループワーク、ワークショップなどの手法を取り入れ、理論の理解とともに実践的な技法の習得が可能となるように工夫する。期待される学習効果は、教育改革の動向をふまえ、自律的学校経営に必要な基礎的知識を習得する。それらを学校で適用するための実践的課題について理解を深めることである。</p> <p>（チーム・ティーチング方式 / 全15回） （14 大西 宏 / 13回） 実務経験を通して得た、学校安全・危機管理の実践的対応に関する研究の成果を踏まえて、教育活動や生徒指導上における、学校危機管理に取り組む課題解決策の習得の観点から授業を行う。 （1 佐古 秀一 / 10回） 学校組織の構造特性とそのマネジメントに関する実証的・実践的研究の成果等をもとに、学校組織の分析と改善・変革の観点から、授業を行う。 （2 岩永 定 / 4回） 学校・家庭・地域の連携の成果等を踏まえて、家庭・地域の参加・参画と学校経営との関係分析・改善策の観点から授業を行う。</p>	<p>チーム・ティーチング方式 6～10人のグループに分けて行う。</p>
科目	教員の在り方に関する実践と課題	<p>本授業は、教員の社会的役割と社会的・職業的倫理について、深く考察するとともに、グループワークを通して、コミュニケーションに対するセルフ・マネジメント能力を高めることを目的とする。これからの教員にとって、学校教育の役割や教員としての在り方について、深く理解した上で、コミュニケーションをマネジメントして、児童・生徒、保護者、教員などと適切に関わることが求められている。本授業では、各人の教員像を明確にしつつ、コミュニケーション理論を基礎としながらも、事例の報告、分析、シミュレーションやロールプレイ、グループ討論などの方法を用いて、実際にコミュニケーション・マネジメントを行う実践力を修得する。</p> <p>（オムニバス方式（一部チーム・ティーチング） / 全15回） （17 豊成 哲 / 8回） 学校における実務経験や教員研修の成果に基づいて、コミュニケーション・マネジメントのあり方を提言・指導する。 （29 三宮 真智子 / 6回） 認知心理学・教育工学の成果に基づいて、コミュニケーション・マネジメントのあり方を提言・指導する。 （36 粟飯原 良造 / 5回） 臨床心理学の成果および臨床経験に基づいて、コミュニケーション・マネジメントのあり方を提言・指導する。</p>	<p>オムニバス方式 （一部チーム・ティーチング）</p> <p>集中 週4回4週間にわたり行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	道徳教育の実践と課題	道徳教育の基礎的事項について理解を深めるとともに、実践的指導力の向上を目指す。期待される効果は以下のとおりである。道徳教育の基礎的事項を習得し、道徳教育の視点から学校教育をとらえることができる。道徳の時間の指導内容・指導方法の改善について考えることができる。実践事例の検討等を通じて、道徳教育の実践的課題を整理することができる。現代日本における道徳教育の課題を広い視野からとらえることができる。学生が持ち込む実践事例を集団で討議し、問題意識の深化を図る。	
個別選択科目	学校組織の分析と開発	<p>本授業は、学校を組織として理解し把握するための主要な視点と理論、学校組織の特性と問題点の分析、学校組織の変革・改善の方法論（学校組織開発）について、実際の学校事例によって理解を深めながら、それに関連した概念や理論に関する知識の習得を行う。授業では、グループワークやシミュレーションなどを取り入れ、抽象的な理解とどまらず具体に関連づけることができるように工夫する。期待される効果は、学校を組織として分析するための観点を修得する、事例を通して学校組織の改善・変革に関する実践可能な方法論を修得する。</p> <p>授業によって期待される効果は、学校を組織として分析するための視点を修得することができる。事例を通して学校組織の改善・変革に関する実践可能な方法論を修得することができる。</p> <p>（チーム・ティーチング方式／全15回） （1 佐古 秀一／15回） 学校組織に関する理論的・実証的研究及び組織開発的研究の成果をふまえ学校組織の診断と開発方法論について考察する。 （18 久我 直人／11回） 現職教員及び指導主事並びに管理主事の実務経験を活用して学校の組織とマネジメントに関する実践的課題とその改善方略について考察する。</p>	<p>チームティーチング方式</p> <p>5ないし6人程度の小集団で行う</p>
	家庭・地域との連携構築に関する事例研究	<p>近年、「開かれた学校」づくりの必要性が政策として強調され、その一つの具体化として学校評議員や学校運営協議会などが制度化されている。保護者や地域住民のニーズに応える必要性が増すとともに、逆に無理難題要求に困惑している学校も少なくない。本演習では、学校と家庭・地域の連携を図っている事例を取り上げながら、学校と家庭・地域との関係の類型化や連携促進・阻害要因について理解を深めていくこと、寄せられる無理難題要求の捉え方と対応法を事例に即して検討すること、それぞれの学校で具体的に連携構築を促進するプログラムについて検討する。授業では、グループ討議、シミュレーションなどを取り入れ、具体的に即した理解と実践性を重視する。</p> <p>授業を通して、教員養成段階や現職研修であまり取り上げられることが少なかった保護者や地域住民とのコミュニケーション能力の向上、資源としての活用能力の向上とともに、保護者や地域に支えられている学校であるとの認識を再度深める機会としたい。</p> <p>（チーム・ティーチング方式／全15回） （2 岩永 定／14回） 主として、学校と家庭・地域の連携に関する理論的・実証的な先行研究の検討及び先駆的な事例の検討、連携プログラムの構想に関して、理論的な側面から考察する。 （14 大西 宏／6回） 主として、管理職経験の立場から、学校と家庭・地域の連携に関する理論的・実証的研究や先駆的事例のもつ可能性と限界について、考察する。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コ 学 校 ・ 学 級 選 択 科 目	学校危機管理に関する事例研究	<p>子どもの安全を保障し尊い命を守り育てることが、学校教育の最重要課題である。本授業は、学校の危機的な事態（生徒指導上の問題、災害、犯罪等の発生）の具体的な事例の分析等を通して、学校危機への事前予防、事後対応の両面について組織的にかつ関係機関等との連携もとで、いかに対応すべきか、その実践的な課題解決策の習得を図ることをねらいとする。授業では、グループワーク、グループ討論、ワークシヨップなどを通して、単なる机上の対処知識ではなく、実践につながる危機管理の対処法を習得できるように工夫する。</p> <p>期待される学習効果は、学校機器に関する全般的な知識と現実的課題への理解を深めることにより、多様な危機管理に対応できる実践的指導力が身につくことである。</p> <p>（チーム・ティーチング方式 / 全15回） （14 大西 宏 / 15回） 実務経験を通して得た、学校安全・危機管理の実践的対応に関する研究の成果を踏まえて、教育活動や生徒指導上等における、学校危機管理に取り組む課題解決策の習得の観点から授業を行う。 （18 久我 直人 / 13回） 実務経験者として、今頻繁に発生している危機事例、並びに児童・生徒の生命にかかわる事例を中心に、学校組織での対応、教育委員会等におけるサポート体制等について、具体的な対応の全体像を示しながら、学校危機管理における今日的課題と対応策を検討する。 （1 佐古 秀一 / 7回） 地震の自然災害時における学校の組織的な対応等に関する研究、ならびに学校の組織体制の整備に関する研究等の成果を踏まえて、危機に対する学校組織の対応とその課題という観点から、授業を行う。</p>	ティーム・ティーチング方式 受講者を2～3グループに分け、それぞれのグループに複数の教員がついて指導を行う。
	人材育成と校内研修	<p>本授業は、教員の人材育成（職能開発）とそのための校内研修に重点を置いて、校内研修経営（計画の作成・開発）に関する知識と技能の習得・形成を図ることを目的とする。そのために、人材育成と研修に関する一般理論と教員の職能開発の特徴を把握し、教員研修の意義と課題の検討をもとに校内研修の実態と問題点を探ることにより、校内研修経営の変革と今後の方策を見出そうとするものである。特に、系統的な事例分析を通して、人材育成や教員研修に関連した理論と方法論、構内研修の計画と実施に必要なとされる専門的知識と技術の習得を目指す。授業では、グループワーク、シミュレーションなどを取り入れ、学校における実践に資する具体的な理解と企画力の獲得ができるように工夫する。</p> <p>（チーム・ティーチング方式 / 全15回） （1 佐古 秀一 / 15回） 教育経営学に関する研究成果に基づいて、新しい校内研修内容・方法の構築に関する問題を人材育成、教員研修の観点から考察する。 （10 芝山 明義 / 15回） 教育社会学に関する研究成果に基づいて、新しい校内研修内容・方法の構築に関する問題を人材育成、教員研修の観点から考察する。 （18 久我 直人 / 6回） 学校・学級経営に関する実践の成果に基づいて、新しい校内研修内容・方法の構築に関する問題を教員研修の観点から指導・助言する。</p>	ティーム・ティーチング方式 受講者を2～3グループに分け、それぞれのグループに複数の教員がついて指導を行う。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別 選択科目	教育学	<p>教育行政と学校教育との関係について理解を深め、学校教育を教育行政の視点からとらえる。授業では、改革課題に対する学校の対処についてのシミュレーションやグループ討議、ワークショップなどの方法により、具体的対応策を構想できるように工夫する。期待される効果は 教育行政の基礎的事項について理解し説明できる。 教育施策の立案について、現状分析、課題把握、解決の方向性の提示など、一連の過程を理解できる。 指導主事の職務のシミュレーションを通じて、学校教育に対する指導助言の基礎を身につけることができる。 学校教育について、教育行政の視点から考えることができる。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 全15回) (13 兼松 儀郎 / 15回) 学校教育及び教育行政に関する実務経験に基づいて、教育行政と学校教育との関係について主として実践的観点から考察する。 (2 岩永 定 / 2回) 教育行政学に関する研究成果に基づいて、学校の自主性・自律性及び学校・家庭・地域の連携について理論的に考察する。 (37 石村 雅雄 / 2回) 教育制度学・教育行政学に関する研究成果に基づいて、教育施策及び教育改革について理論的に考察する。</p>	チーム・ティーチング方式
	経営学	<p>現代の教員には、現代社会の動向・状況が投げかける諸問題を、各自の置かれている現場での文脈を踏まえて、適切に把握し、対応し、解決していく能力が求められている。本講義では、現代社会の諸問題に対する解決策・対応策として形成・実施される中央あるいは地方政府が発する教育施策を、自らの現場での経験を通して個別的・具体的に理解し、時としてそれらに向けて発信者として関わること、「社会」と学校・教員との繋がり、「社会」から投げかけられる様々な問題への学校としての対応等について、我が国や諸外国の生きた実践例を素材として、受講者との相互討議を行う形で考え、もって、社会動向・政策把握、その主体的受けとめ、発信に関する能力を醸成し、実際に学校構成員・関係者が社会・政策に関わり、かつ関わりながらそれらを制御していく力を身につけることを目標とする。授業方法上の工夫としては、ワークショップやグループ討議に比重を置き、学生の主体的関与を促すようにする。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 全15回) (37 石村 雅雄 / 15回) 教育政策・制度に関する研究成果に基づいて、比較制度的、歴史的に現代教育成策・制度の諸問題を考察する。 (13 兼松 儀郎 / 4回) 現場での経験及び教育方法学に関する広い知見に基づいて、現代教育政策・制度の諸問題に対しての諸見解を整理・分析し、石村の整理・分析に対してのアルタナティブを提出する形で、受講生の多様なものの見方、考察の仕方の修得をより有効なものにする。</p>	チーム・ティーチング方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コ ー ス 別 選 択 科 目	学 校 ・ 学 級 経 営 コ ー ス 学校プロジェクト事例 演習(学校・学級経営)	<p>本授業は、勤務校の実習課題希望調書に記載された実習テーマに基づいて、勤務校のデモグラフィックなデータを収集・整理すること、勤務校が直面している児童・生徒の課題と実習テーマの関連性について検討すること、2年次の実習に向けて、必要な資料の収集方法について理解するとともに、実践的な技法を習得すること、をねらいとしている。また、現職教員学生、実習実施担当者、実習担当教員との間で相談し、学生の力量形成はもとより、実習校の改善に資するような具体的な実習テーマを設定し、その課題を解決していくための実習計画を作成する。</p> <p>期待される成果は、学校の実態に関する資料の収集と分析を行う方法論を習得すること、学校の改善に向けてさまざまな課題とアプローチがあることを理解すること、勤務校から提示された実習テーマを実践可能な具体的テーマへと転換する力を習得すること、である。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式/全15回) (2 岩永 定/15回) 教育研究法のうち、インタビュー法、質問紙調査法を担当するとともに、小グループ担当として、資料の分析、レポートの作成、改善構想案の立案・検討・修正をおこない、改善レポートの充実を図る。 (14 大西 宏/15回) 教育研究法のうち、フィールドワークに関する部分を担当するとともに、小グループ担当として、資料の分析、レポートの作成、改善構想案の立案・検討・修正をおこない、改善レポートの充実を図る。 (13 兼松 儀郎/15回) 教育研究法のうち、インタビュー法に関する部分を担当するとともに、小グループ担当として、資料の分析、レポートの作成、改善構想案の立案・検討・修正をおこない、改善レポートの充実を図る。 (18 久我 直人/15回) 教育研究法のうち、観察法に関する部分を担当するとともに、小グループ担当として、資料の分析、レポートの作成、改善構想案の立案・検討・修正をおこない、改善レポートの充実を図る。 (1 佐古 秀一/15回) 教育研究法のうち、観察法に関する部分を担当するとともに、小グループ担当として、資料の分析、レポートの作成、改善構想案の立案・検討・修正をおこない、改善レポートの充実を図る。 (10 芝山 明義/15回) 教育研究法のうち、質問紙調査法を担当するとともに、小グループ担当として、資料の分析、レポートの作成、改善構想案の立案・検討・修正をおこない、改善レポートの充実を図る。</p>	<p>ティーム・ティーチング方式</p> <p>受講者を2～3グループに分け、それぞれのグループに複数の教員がついて指導を行う。</p> <p>集中 8月に8回行う。 2月に7回行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コ ー ス 別 選 択 科 目	学 校 ・ 学 級 経 営 コ ー ス 実践課題探求（学校・学級経営）	<p>本授業は、2年次の課題分析実習（4単位）に対応した前期演習と、課題解決実習に対応した後期演習で構成される。前期演習においては、実習で収集したデータの解釈を集中的に行う。主として各自の発表に対する質疑・応答によるグループ討論を授業形態とする。そのために、実習後の1ヶ月間でデータの整理を進めさせる。</p> <p>複雑な要因のもとで実践されている学校経営・学級経営を、ひとつの観点から見つめることを通して状況把握能力、分析能力の獲得をめざす。</p> <p>後期演習では、課題解決実習で収集したデータの分析をもとに、当該テーマに関する改善案を具体化することを目的としている。それが机上のプランにならないように、事例校の諸条件を加味しながら実践可能な改善案を、学生、実習校指導員及び大学の実習担当教員との間で十分に検討しながら作成する。それとともに、作成した改善報告書を第三者（特に実習校指導員）にわかるように簡略にまとめ、プレゼンテーションを行うものとする。</p> <p>これらの経験を通じて、学校が抱える課題を解決していくプロセスと活動を修得し、当該テーマ以外の事項についても適用可能となるような応用力を身につけるとともに、わかりやすいプレゼンテーションの力も獲得できるようにする。</p> <p>（ティーム・ティーチング方式 / 全30回） （2 岩永 定 / 30回） 教育行政学の研究成果に基づいて、担当実習生及び他の実習生の改善レポートの充実のために、理論的側面から指導を行う。 （14 大西 宏 / 30回） 校長、教育行政の実務経験を基にして、担当実習生及び他の実習生の改善レポートの充実のために、実践的側面から指導を行う。 （13 兼松 儀郎 / 30回） 教育の実務経験を基にして、担当実習生及び他の実習生の改善レポートの充実のために、実践的側面から指導を行う。 （18 久我 直人 / 30回） プレゼンテーションのための演習とともに、教員や教育行政の実務経験を基に、担当実習生及びその他の実習生の改善レポートの充実のために、実践的側面から指導する。 （1 佐古 秀一 / 30回） プレゼンテーションのための演習とともに、学校組織論の研究成果を基に、担当実習生及びその他の実習生の改善レポートの充実のために、理論的側面から指導する。 （10 芝山 明義 / 30回） プレゼンテーションのための演習とともに、教師教育論の研究成果を基に、担当実習生及びその他の実習生の改善レポートの充実のために、理論的側面から指導する。</p>	ティーム・ティーチング方式 集中 5月から8月の間に15回行う。 12月から2月の間に15回行う。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コ ー ス 別 選 択 科 目	エンカウンターグループ体験演習	<p>本演習では、児童生徒理解、生徒指導・教育相談、心の教育、コミュニケーションの力量を有した生徒指導のエキスパートとしての教員を目指す出発点として、グループ・アプローチの一つであるエンカウンター・グループを体験することを通して、自他の理解、コミュニケーションや対人関係の技能について学ぶ。本授業では、グループ・ワークによる構成的グループ・エンカウンターや継続型のエンカウンター・グループの体験を通して、受講者個人の心理的成長を図ったり、個人間のコミュニケーションや対人関係技能の習得を目指す。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 全15回) (11 山下 一夫 / 15回)</p> <p>カウンセリングや生徒指導に関する研究成果や臨床経験に基づいて、生徒指導・教育相談における基本的姿勢や態度をカウンセリング・マインドの観点から考察する。 (36 粟飯原 良造 / 14回)</p> <p>小児医学に関する研究成果や臨床経験に基づいて、学校と家庭、教師と保護者に関する問題をコミュニケーションの観点から考察する。</p>	チーム・ティーチング方式
	学校カウンセリングの実践と課題	<p>この授業では、来談者中心療法に基づいた傾聴中心の対話のすすめ方、解決志向アプローチに基づいた面接の構造化と短期介入の方法という2点を中心に、学校現場での要請に応えられるようなカウンセリング・モデルを提示し、ロールプレイングやシミュレーションによる演習を交えながら解説していく。併せて、グループ・ワークのすすめ方や学内での教育相談態勢の作り方についても触れる。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 15回) (36 粟飯原 良造 / 15回)</p> <p>臨床心理学に関する研究成果や臨床経験に基づいて、カウンセリング技法について来談者中心療法や解決志向アプローチを演習を通して解説・技術指導する。 (5 小坂 浩嗣 / 7回)</p> <p>教育臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、カウンセリング・マインドや傾聴技法、連携・協働のあり方を臨床的実際の観点から考察する。</p>	チーム・ティーチング方式
	外部機関との連携に関する実際と課題	<p>本演習では、生徒指導に関係する学校外部諸機関である教育機関(教育センター、青少年補導センター、適応指導教室等)、児童福祉機関(児童相談所、児童自立支援施設等)、司法・矯正機関(少年鑑別所、家庭裁判所、警察等)、医療・相談機関(病院、保健所、精神保健センター、大学心理・教育相談室等)について、組織、制度、業務等の理解と学校現場との連携を学ぶ。本授業では、主に生徒指導に関係する外部諸機関へのフィールドワーク(実地視察)を通して、諸機関についての理解と認識を深め、有機的な連携をするための社会的技能の習得を目指す。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 15回) (5 小坂 浩嗣 / 13回)</p> <p>教育臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、学校内協働のあり方や外部関係機関との連携・協働のあり方を臨床的実際の観点から考察する。 (19 佐藤 亨 / 12回)</p> <p>犯罪心理学に関する研究成果や非行臨床経験に基づいて、外部専門機関の実務や連携に関する問題をコミュニティ心理学の観点から考察する。</p>	チーム・ティーチング方式 それぞれの機関の性格に応じて、教員が分担して指導を行う。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別実践選択科目	学校メンタルヘルス相談の実践と課題	<p>本演習では、児童生徒や学校の教職員に見られるメンタルヘルス上の問題に関する知識を学習するとともに、不登校、ひきこもり、対人関係の諸問題などに対する心理療法、主として認知療法や社会技能訓練 (Social Skills Training, SST) の学校メンタルヘルス相談への適用について学ぶ。指導法として、シナリオ・ロールプレイやシミュレーションを導入して授業展開する。本授業の到達目標は、メンタルヘルス(精神健康・精神保健)に関わる学校教育相談、すなわち学校メンタルヘルス相談における方法論として、学校現場で活用できる認知療法と社会生活技能訓練の理論と技法を習得することである。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 15回) (27 井上 和臣 / 15回)</p> <p>認知療法に関する研究成果や臨床経験に基づいて、認知療法や社会的技能訓練の学校メンタルヘルス相談への適用について理論と技法の観点から考察する。 (20 末内 佳代 / 8回)</p> <p>学校臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、学校メンタルヘルス実践上の問題を教師とカウンセラーの統合的観点から考察する。</p>	チーム・ティーチング方式
	生徒指導・教育相談の実際と課題	<p>本演習では、受講者が学校現場や教育機関(教育センター、適応指導教室等)で実践活動した教育指導・援助実践について、見立て、指導・援助の方針・計画、方策を集団討議により多角的に検討を行い、生徒指導における資質の涵養と力量の開発・形成を目指す。本授業では、教育現場での実践活動過程を客観化し、分析・検討して、さらなる実践へと発展させていくためのケースマネジメントやシステムオーガニゼーションなどの実践的スキルの習得を目指す。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 15回) (27 井上 和臣 / 14回)</p> <p>認知療法に関する研究成果や臨床経験に基づいて、問題行動のある児童生徒への理解と対処を精神医学の観点から考察する。 (20 末内 佳代 / 15回)</p> <p>学校臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、発達障害に関わる問題行動への理解と対処を発達支援の観点から考察する。</p>	チーム・ティーチング方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コ ー ス 別 選 択 科 目	学校臨床実践事例研究	<p>本演習では、不登校、いじめ、非行などの問題行動に対する生徒指導や心の教育の指導・援助実践に関する事例発表をもとに、集団討議により多角的に事例検討することを通して、学校臨床に関わる生徒指導の力量向上を目指す。本授業では、生徒指導や教育相談におけるコミュニケーション、ケースマネジメント、システムオーガニゼーションの実践的技能と社会的リーダーシップ等の指導力の向上を目指す。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式 / 15回) (11 山下 一夫 / 14回) カウンセリングや生徒指導に関する研究成果や臨床経験に基づいて、生徒指導・教育相談における指導援助のあり方やカウンセリング・マインドを心理臨床的観点から考察する。 (19 佐藤 亨 / 14回) 犯罪心理学に関する研究成果や非行臨床経験に基づいて、アセスメント法や非行問題に関する指導援助のあり方を非行臨床的観点から考察する。 (20 末内 佳代 / 15回) 学校臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、発達障害に関わる問題行動への理解と対処を発達支援の観点から考察する。</p>	ティーム・ティーチング方式
	学校プロジェクト事例演習(学校臨床実践)	<p>2年次の実習に向けて、実習施設における不登校・いじめ・非行などの生徒指導上の問題や心の教育などに対する総合的な教育指導・援助に関わる総合的な課題解決力の開発と育成を目指す。具体的には、前半で不登校・いじめなどの問題に関するテーマ、校内協働や外部機関との連携などの指導体制に関するテーマなどを想定し、小グループでの集団討議により実習基本計画をシミュレート作成する。後半では、実習施設における課題や要望をもとに小グループでの集団討議により2年次の実習基本計画案を作成する。</p> <p>本授業では、実習基本計画をシミュレートしたり実際に作成したりすることを通してアセスメント、ケースフォーミュレーション、ケースマネジメントなどの実践的技能を修得する。</p> <p>(ティーム・ティーチング方式 / 15回) (5 小坂 浩嗣 / 15回) 教育臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、児童生徒理解の方法やあり方等の問題を精神分析的観点から考察する。 (11 山下 一夫 / 15回) カウンセリングや生徒指導に関する研究成果や臨床経験に基づいて、生徒指導・教育相談における指導援助のあり方やカウンセリング・マインドを心理臨床的観点から考察する。 (19 佐藤 亨 / 15回) 犯罪心理学に関する研究成果や非行臨床経験に基づいて、アセスメント法や非行問題に関する指導援助のあり方を非行臨床的観点から考察する。 (20 末内 佳代 / 15回) 学校臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、発達障害に関わる問題行動への理解と対処を発達支援の観点から考察する。</p>	ティーム・ティーチング方式 集中 8月に8回行う。 2月に7回行う。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	学校臨床実践 実践課題探求（学校臨床実践）	<p>本演習では、教育や学校臨床に関する理論知と、実習科目（課題分析実習、課題解決実習）により習得した実践知について統合化し体系化することとともに、アカウントビリティの技能向上を目指す。具体的には、前半で実習施設で収集した情報をもとに、グループ討議を中心にしながら各受講生が学校アセスメントを行い、問題解決の方針や綿密な教育指導計画を立てる。後半では、実習施設での実践をもとに具体的な教育指導・援助の方策や実践過程について、グループ討議と個人分析を循環的に展開させながら、課題解決に対する指導・援助の効果や問題点、課題と改善の方向性を明らかにする。これらの研究成果を報告書としてまとめるとともに、実習施設への還元を目的にプレゼンテーションを実施する。</p> <p>本授業では、学校アセスメントや生徒指導に関わる教育指導・援助計画の立案、指導体制の構築と有機的な連携運営などの実践力と応用力、研究成果をまとめプレゼンテーションする技能を習得できる。</p> <p>（チーム・ティーチング方式 / 30回） （5 小坂 浩嗣 / 30回） 教育臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、実践研究の方法やプレゼンテーションの技術を実務的観点から解説、技術指導する。 （11 山下 一夫 / 30回） カウンセリングや生徒指導に関する研究成果や臨床経験に基づいて、実践研究における姿勢や考え方及び倫理に関する問題を臨床的観点から指導する。 （19 佐藤 亨 / 30回） 犯罪心理学に関する研究成果や非行臨床経験に基づいて、アセスメント法や非行問題に関する指導援助のあり方を非行臨床的観点から考察する。 （20 末内 佳代 / 30回） 学校臨床心理学に関する研究成果や学校臨床経験に基づいて、実践研究に関わるプレゼンテーションのあり方を学校現場の観点から指導する。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>集中 5月から8月の間に15回行う。</p> <p>12月から2月の間に15回行う。</p>
	授業実践・カリキュラム開発コース 学習者理解の実際と課題	<p>児童生徒の学習活動の実態や能力等を捉える理論と技術を、研究事例や実践事例の分析を通して理解し習得するとともに、課題を明らかにする。そのため、授業実践にかかわる児童生徒の学習活動について、現職教員の授業に関わる実践研究事例やそれと直接関連する理論的研究事例を関連させながら事例分析を行う。各教科・道徳等の授業や教材開発に関するそれぞれの事例を対象に実習や演習も交えつつ分析することを通して、児童生徒等の学習者理解の方法と技術を習得する。</p>	
授業実践・カリキュラム開発コース 学習者支援の実際と課題	<p>本授業では、学校での授業づくりや単元構成における実践上の課題を明らかにしつつ、教師が授業を通して子どもたちの学習を効果的に支援するための教育技術について、研究事例や実践事例の分析、具体的な技法の演習、講義内容を踏まえた授業設計・単元設計とそれに関するグループ討議等を通して理解を深める。本授業を通して受講生は、ねらいに沿った支援を行うための具体的な技法や授業・単元の設計法を習得するとともに、個々の技法を支える理論的枠組みについても知識を習得し、実践の場において自ら新たな学習者支援の方策を探究していけるようになることをめざす。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	カリキュラムの構成演習	<p>本演習では、授業内容を具現化する教科の指導内容や総合的な学習のカリキュラム構成についての理論と技術を、理論的検討と研究事例や実践事例の分析・検討を通して理解するとともに、実際にカリキュラムの構成演習を行うことにより、カリキュラム構成の技術を修得する。最初の4回は、カリキュラム構成の課題について理論的に学ぶ。次の5回は、教育現場のカリキュラムの研究事例や実践事例の分析・検討を通してカリキュラムの構成の条件と手続きを学ぶ。最後の6回はペアで、カリキュラムを開発し、提案・改善を経ることによって、カリキュラム構成の技術を修得する。</p>	
	教材教具の開発演習	<p>教育内容を具体化し、児童・生徒の学習活動と直接的に関わるものが教材教具である。また教材教具に関わる要素は多様で、しかも深く関わり合っているために、教材教具とは何かをあらためて説明しようとするとは簡単ではない。この授業では教材教具を教材観や歴史的な観点から考察することから始め、教材開発の意義について検討を加える。さらに、発達段階、学習環境等の学習者の実際に即した教科や校種別の教材教具の開発を実際に試み、その有用性を評価する具体的な活動を展開する。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (4 小野瀬 雅人/8回) 教材の心理学の研究成果に基づき、学校現場で求められる教材・教具の開発について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (15 廣瀬 隆司/9回) 学校現場での教科指導等に関する豊富な実務経験に基づき、教材・教具開発の内容およびその開発方法について、実務家の観点から考察を行う。 (12 西村 公孝/5回) 教科教育学(社会科)に関する研究成果と実際の学校での教職経験に基づき、カリキュラムと教材教具との関係、教材の改善プロセス等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p>	チーム・ティーチング方式
	学習者支援フィールドワーク	<p>本授業では、学校現場で実際に受講者自身による授業実践を行い、それらの授業の中で幼児児童生徒の変容を追跡し、幼児児童生徒の概念獲得、生活知への転換と教師の影響などについて、分析する。具体的には、校種、学年を考慮したグループ編成を行い、各グループによる授業の中で、幼児児童生徒の変容と教師の指導を視点として、授業事前研究、演習授業、事後授業分析を行う。これらの授業を通して、授業に対する分析的視点及びその手法を習得し、幼児児童生徒を変容させる教育技術を習得することを目指す。</p> <p>(チーム・ティーチング) (7 川上 綾子/9回) 認知心理学・教育工学の研究成果に基づき、学習者の意識・論理と学習指導との関係について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (21 香西 武/15回) 学校現場での教科指導等に関する豊富な実務経験に基づき、学習者の意識を中核に据えた具体的な指導や支援のあり方について、実務家の観点から考察を行う。</p>	チーム・ティーチング方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教師熟達フィールドワーク	<p>本授業では、「教師を変える授業研究」を展開する。すなわち、専門職としての教師の力量形成に関する方法論的アプローチを文献学により修得し、その実際的内容を実地に理解する。具体的には、学校現場における実際の授業の観察及び実践を通して、教師の教育観や授業観を変える批判的・反省的実践のあり方を習得し、授業改善に資する教師の実践的認識力を高めることを目的とする。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (30 梅野 圭史/15回) 教科教育学(保健体育科)に関する研究成果と実際の学校での教職経験に基づき、教師の専門性の発達や力量形成について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (15 廣瀬 隆司/5回) 学校現場での授業実践・授業評価等に関する豊富な実務経験に基づき、授業改善や反省的実践の方法について、実務家の観点から考察を行う。 (3 村川 雅弘/5回) 教育課程論に関する研究成果に基づき、教師の専門性の発達や力量形成について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p>	チーム・ティーチング方式
コース別選択科目	授業実践・カリキュラム開発コース 学校プロジェクト事例演習(授業実践・カリキュラム開発)	<p>本授業は、学校現場における授業実践やカリキュラム開発に関する課題の分析・発見、解決策の提案・実践、その評価とさらなる改善策の提案というプロセスに必要な知識や技能の修得を図りつつ、それらを踏まえて、各受講生の2年次での実習に向け、テーマの追究方法の決定、基本的な計画の立案とその具体化へ繋げていくことをねらいとする。具体的には、本授業の前半(第1~8回)では、学校の課題把握や解決策の提案・評価等に不可欠な資料収集・分析方法について基本的な知識と各種技法を身に付けた後、各自、自らのテーマに応じて実習計画を構想する(実習計画案())。その後、2年生の実践課題探求への参加により実習の実際の様子について理解を深め、後半(第9~15回)では、先に構想した実習計画をより具体化し、実習校の課題の把握と構造化のための活動を準備・実施する(実習計画案())。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (4 小野瀬 雅人/15回) 授業心理学の研究成果に基づき、授業分析の方法や教材教具の開発等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (7 川上 綾子/15回) 認知心理学・教育学の研究成果に基づき、授業構成や教授技術、学習評価等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (3 村川 雅弘/15回) 教育課程論に関する研究成果に基づき、学校カリキュラム開発や「総合的な学習の時間」等の単元開発とそれらの評価等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (12 西村 公孝/15回) 教科教育学(社会科)に関する研究成果と実際の学校での教職経験に基づき、カリキュラムや教材の開発、それらと学習指導・評価との関係等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。 (15 廣瀬 隆司/15回) 学校現場における豊富な実務経験に基づき、学校カリキュラム開発や教科等の単元・教材開発、指導展開等について、実務家の観点から考察を行う。 (21 香西 武/15回) 学校現場における豊富な実務経験に基づき、授業改善や学習評価の具体的な方法、学習者への指導・支援のあり方等について、実務家の観点から考察を行う。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>集中 8月に8回行う。 2月に7回行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	授業実践・カリキュラム開発コース 実践課題探求（授業実践・カリキュラム開発）	<p>本授業は、2年次の「課題分析実習」に対応した前期演習と、「課題解決実習」に対応した後期演習で構成される。</p> <p>前期演習（第1～15回）では、課題分析実習で収集した資料の分析・解釈を深化させ、その結果を踏まえて、先に試行的に導入した課題改善方略（改善案）の修正・精緻化を図り、課題解決実習に向けて具体的な計画・準備を進める。受講生は、実習担当教員をはじめとする教員スタッフから個々に指導・助言を受けつつ、それらの活動に取り組む。また、課題分析実習における分析のまとめを相互に発表し討論する機会を持つことで、自らの課題はもとより他の受講生の課題についても認識を深めることになり、授業やカリキュラムに関わる幅広い問題への意識喚起と対応力の育成へ繋がること期待される。</p> <p>後期演習（第16～30回）では、個々の受講生が課題分析実習及び課題解決実習において経験した、授業やカリキュラムに関する課題を発見・分析し、その解決もしくは改善の方略を開発・実践し、それらを評価する、というプロセスをふり返り、そこから得た実践的知識・技能について、関係する理論との融合を図りつつ体系化する。また、実習の成果及びこれまでの研究成果を実践の場にわかりやすく還元することを目的として、実習校等に対する報告書やプレゼンテーションを作成する。</p> <p>以上より、授業やカリキュラムに関する幅広い問題に対応し、その解決・改善を図るプロセスと方法を身につけるとともに、研究成果を他者と共有するためのプレゼンテーション能力を修得する。</p> <p>（チーム・ティーチング方式 / 30回） （4 小野瀬 雅人 / 30回） 授業心理学の研究成果に基づき、授業分析の方法や教材教具の開発等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p> <p>（7 川上 綾子 / 30回） 認知心理学・教育工学の研究成果に基づき、授業構成や教授技術、学習評価等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p> <p>（3 村川 雅弘 / 30回） 教育課程論に関する研究成果に基づき、学校カリキュラム開発や「総合的な学習の時間」等の単元開発とそれらの評価等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p> <p>（12 西村 公孝 / 30回） 教科教育学（社会科）に関する研究成果と実際の学校での教職経験に基づき、カリキュラムや教材の開発、それらと学習指導・評価との関係等について、理論と実践の統合の観点から考察を行う。</p> <p>（15 廣瀬 隆司 / 30回） 学校現場における豊富な実務経験に基づき、学校カリキュラム開発や教科等の単元・教材開発、指導展開等について、実務観点から考察を行う。</p> <p>（21 香西 武 / 30回） 学校現場における豊富な実務経験に基づき、授業改善や学価の具体的な方法、学習者への指導・支援のあり方等について実務家の観点から考察を行う。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>集中 5月から8月の間に15回行う。</p> <p>12月から2月の間に15回行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	授業に関わる実践的研究	<p>臨床的な学習指導力を育むために必要とされる子どもの学びに関する諸理論を検討する。特に、学びに関しては、「事実がわかること」と「真実（現実）がわかること」という二つの側面から検討する。そして、この二つの学びを統合的にとらえながら、学習指導過程立案の方法を検討する。指導案に基づいて、模擬授業を行い、その振り返りを集団討議の形で行う。また、授業の構想において準備される指導方略と授業の実践において発揮される指導方術の双方を反省的に見つめ直す理論的な枠組みを身につけることを目指す。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 全15回) (35 長島 真人 / 15回) 音楽科教育学の授業過程論に関する研究成果に基づいて、学校現場で求められる授業に関する実践力と理論的基盤の統合の視点から考察を行う。 (17 豊成 哲 / 3回) 音楽科教育に関する授業実践、授業分析に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、学校現場で求められる授業に関する実践力を高めるため、実務家の観点から考察を行う。</p>	チーム・ティーチング方式
	教科外活動に関わる実践的研究	<p>小、中学校における教科外の活動、とりわけ道徳、特別活動について、講義と演習を通して実践に即した授業力の育成を図ることをねらいとしている。実際に道徳及び特別活動について、学級状況を想定して指導案を作成し、それに基づき模擬授業を行う。その振り返りについて、集団討議を行い、学びを深化させる。具体的には、特別活動におけるカリキュラム構成、話し合い等の対話組織、活動の読み取りと支援等についての実践知の習得と、実践的態度の育成を図る。なお、本授業は、教育実習と深く連動させており、受講者の実習中の取り組みの内容を取り上げ事例研究を進める。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 全15回) (6 山田 芳明 / 15回) 教育実践学に関する研究成果、及び、小学校教員としての実務経験に基づき、学校現場で求められる教科外活動に関わる実践的内容と理論的基盤の統合の視点から考察を行う。 (16 木下 光二 / 3回) 授業実践、授業分析に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、学校現場で求められる教科外活動に関する実践力を高めるため、実務家の観点から考察を行う。</p>	チーム・ティーチング方式
	生徒指導・進路指導に関わる実践的研究	<p>この授業では、小学校で直面する生徒指導と進路指導に関する実践的な課題に関して、具体的な問題事例の検討を基に、教師として求められる生徒指導の力量形成を目指す。授業の前半は、事例の問題の原因を分析し、そこから解決方法を導き出すことを集団での討論を中心に行うことで、実践的な判断力を身につけることができ、後半では、ロールプレイを用い、実際の問題場面の解決に必要な実践的力量を修得する。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 全15回) (8 葛上 秀文 / 15回) 生徒指導、学級経営に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、学校現場で求められる生徒指導、進路指導に関する実践力を高めるため、実務家の観点から考察を行う。 (22 岩久保 和義 / 3回) 生徒指導、学級経営に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、学校現場で求められる生徒指導、進路指導に関する実践力を高めるため、実務家の観点から考察を行う。</p>	チーム・ティーチング方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	授業熟達実地演習	<p>授業構成、展開、評価に関する力量の向上を目指す授業熟達実習と連動し、学級の児童の実態に合わせて各教科の単元構成と、授業展開を検討する。5週間で行うため、週あたり3回の授業を行う。1～6回までは、音楽、図工、体育の中から1科目選択し、7～12回までは、国語、算数、理科社会の中から1科目選択し、授業構想、授業実践、授業評価を行う。授業の様子を撮影したビデオを少人数のグループで視聴しながら、その授業の課題と改善方策について、相互に出し合えるように支援する。また、授業実施後の評価を通して、自己の授業力を自己評価し、授業実践の力量を形成を目指す。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (6 山田 芳明/5回)</p> <p>教育実践学に関する研究成果及び、小学校教員としての実務経験に基づいて、連携協力校で進められる授業熟達に関する実習経験を理論的に省察する観点から考察する。 (16 木下 光二/15回)</p> <p>授業研究に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、連携協力校で進められる授業熟達に関する実習経験を理論的に省察する観点から考察する。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>集中 週3回5週間にわたり行う。</p>
	学級経営実地演習	<p>学級経営に関する力量の向上を目指す学級経営基礎実習と連動しながら行う演習である。学級経営基礎実習を通して、直面した学級経営上の生徒指導の課題、学級経営と教科等の授業との関連に関わる課題、学級担任としての様々な事務の在り方に関する課題を取り上げる。たとえば、各学校で直面した学級経営上の課題を事例とし、その改善に向けてグループで分析する。学級経営の重要性と児童が主体的な学習活動を展開できる学級にするための方法を追究し、学級経営力を修得する。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (9 藤原 伸彦/5回)</p> <p>認知心理学に関する研究成果及び、実地教育に関する指導経験に基づいて、連携協力校で進められる学級経営に関する実習経験を理論的に省察する観点から考察する。 (17 豊成 哲/15回)</p> <p>授業実践、授業研究に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、連携協力校で進められる学級経営に関する実習経験を理論的に省察する観点から考察する。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>集中 週3回5週間にわたり集中で行う。</p>
	児童理解実地演習	<p>連携協力校で進められる児童理解実習と連動し、そこで浮かび上がってきた疑問等について、連携協力校のメンターの協力を得て、その解決を図る中で、児童理解の力量の向上を目指す。具体的には、配属された学級の児童すべてについて、学力面、生活面、交友関係面について詳細なポートフォリオを作成し、そのポートフォリオを持ち寄り、少人数のグループで事例分析を行う。児童理解の発達を促す。また、ほかの連携協力校に所属している院生の課題を協働で解決することで、その力量の向上も図る。</p> <p>(チーム・ティーチング方式/全15回) (8 葛上 秀文/5回)</p> <p>生徒指導、学級社会学に関する研究成果に基づいて、連携協力校で進められる児童理解に関する実習経験を理論的に省察する観点から考察する。 (17 豊成 哲/15回)</p> <p>授業実践、授業研究に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、連携協力校で進められる児童理解に関する実習経験を理論的に省察する観点から考察する。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>集中 週3回5週間にわたり集中で行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース別選択科目	学級経営実践演習	<p>この授業では、学級経営に関する力量の向上を目指す学級経営基礎実習と連動しながら行う演習である。学級経営実践実習、総合インターンシップを通して、直面した学級経営上の生徒指導の課題、学級経営と教科等の授業との関連に関わる課題、学級担任としての様々な事務の在り方に関する課題を取り上げる。学級経営の重要性と児童が主体的な学習活動を展開できる学級にするための方法を追求し、学級経営力を向上させることを目指す。この授業の中で、自らの授業実践を振り返るとともに、同僚に対する支援の在り方について重要性を理解するとともに、ロールプレイや参加型学習を取り入れてと実際に求められるスキルの獲得を目指す。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 全15回) (9 藤原 伸彦 / 5回) 認知心理学に関する研究成果及び、実地教育に関する指導経験に基づいて、連携協力校で進められる学級経営に関する実習経験を理論的に省察する観点から考察する。 (16 木下 光二 / 15回) 授業研究に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、連携協力校で進められる学級経営に関する実習経験を理論的に省察する観点から考察する。</p>	チーム・ティーチング方式
	実践課題探求(教員養成特別)	<p>この授業は、これまで教職大学院で学んできた到達度を評価するため、実践的側面及び理論的側面に関する試験に向けての演習を行う。具体的には、総合インターンシップで配属された学級において、児童の特徴に関するケースレポートの作成、自らが設定した単元に関して、単元計画の作成、その単元の中から、1時間分の授業の実践、及び、その全体に関して、教育委員会関係者、連携協力校関係者に向けて、成果を発表する。</p> <p>この授業で期待される学習効果は、小学校教員として、赴任直後から実践力を発揮できうる力の育成であり、将来、学校のリーダーとして活躍するための基盤となる力量の獲得である。</p> <p>(チーム・ティーチング方式 / 15回) (6 山田 芳明 / 15回) 教育実践学に関する研究成果及び、小学校教員としての実務経験に基づいて、連携協力校で進められる総合的な実習経験を理論的に省察する観点から考察する。 (8 葛上 秀文 / 15回) 生徒指導、学級社会学に関する研究成果に基づいて、連携協力校で進められる総合的な実習経験を理論的に省察する観点から考察する。 (9 藤原 伸彦 / 15回) 認知心理学に関する研究成果及び、実地教育に関する指導経験に基づいて、連携協力校で進められる総合的な実習経験を理論的に省察する観点から考察する。 (17 豊成 哲 / 5回) 授業実践、授業研究に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、連携協力校で進められる総合的な実習経験を理論的に省察する観点から考察する。 (16 木下 光二 / 5回) 授業研究に関する研究成果、及び、実務家としての豊富な経験に基づいて、連携協力校で進められる総合的な実習経験を理論的に省察する観点から考察する。</p>	<p>チーム・ティーチング方式</p> <p>集中 12月から1月の間に15回行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目	学校・学級経営コース 学校臨床実践コース 授業実践・カリキュラム開発コース	<p>課題分析実習は、1年次に履修する「学校プロジェクト事例演習」で整理した学校の課題と改善方略の構想をもとに、学校の現状をさらに分析し、改善方略の具体化と、学校における初期的実践を行うこと等を、主要な内容とする。2年次4月から4週間、週5日の実習を行う。実習生は、毎日実習校を訪問し、事前の計画に基づき、改善方略に沿って学校の現状を分析する。</p> <p>(2 岩永 定) 教育行政学に関する研究成果に基づいて、学校の自主性及び学校・家庭・地域の連携に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(1 佐古 秀一) 教育経営学に関する研究成果に基づいて、新しい校内研修内容・方法の構築等に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(10 芝山 明義) 教育社会学に関する研究成果に基づいて、人材育成、教員研修に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(13 兼松 儀郎) 学校教育及び教育行政に関する実務経験に基づいて、学校と教育行政との連携に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(14 大西 宏) 学校安全・危機管理に関する実務経験に基づいて、生徒指導等における学校の危機管理に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(18 久我 直人) 指導主事並びに管理主事の実務経験に基づいて、学校の組織とマネジメントに関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(11 山下 一夫) カウンセリング及び生徒指導に関する研究成果に基づいて、生徒指導・教育相談体制に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(5 小坂 浩嗣) 教育臨床心理学に関する研究成果及び学校臨床経験に基づいて、外部機関との連携、協働体制に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(19 佐藤 亨) 非行臨床に関する実務経験に基づいて、外部専門機関との連携構築等に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(20 末内 佳代) 学校臨床心理学に関する研究成果及び学校臨床経験に基づき、発達障害に関わる問題行動への組織的対処に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(4 小野瀬 雅人) 授業心理学の研究成果に基づき、教材教具の組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(12 西村 公孝) 教科教育学(社会科)に関する研究成果及び教職経験に基づき、カリキュラム・教材の組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(3 村川 雅弘) 教育課程論に関する研究成果に基づき、学校カリキュラム開発、総合的な学習の時間の単元についての組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(7 川上 綾子) 認知心理学・教育工学に関する研究成果に基づき、学習評価等に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(15 廣瀬 隆司) 学校現場における実務経験に基づき、教科等の単元・教材開発に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(21 香西 武) 教科指導に関する豊富な実務経験に基づき、授業改善や反省的实践に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	課題分析実習

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目 学校・学級経営コース 学校臨床実践コース 授業実践・カリキュラム開発コース	異校種実習	<p>勤務する学校と異なる種別の学校の児童生徒、教職員、学校運営体制の違いについて、参与観察などを行い、異校種の理解を深める。</p> <p>現職教員学生の校種に配慮して、松茂町、北島町、藍住町の連携協力校において異校種実習を行う。異校種実習は2年次9月の4週間にわたり行う(学校での実習日数は12日間)。小学校及び高等学校教員は中学校、中学校教員は小学校で参与観察とインタビュー法等による資料の収集を行う。社会人等の場合は、教育委員会、連携協力校と調整を行い、実習校を決定する。異校種実習の課題は、異校種における、児童生徒の実態の把握、教職員の活動(教科指導、学級経営、課外活動等)の理解、学校の運営システムの理解である。これらを実地に学習する。</p> <p>実習の基本的な進行は以下の通りである。</p> <p>事前指導 大学において異校種実習の目的、すすめ方等について事前の指導を行い、実習計画をたてる。(4時間)</p> <p>第1週 主として異校種における児童生徒理解を中心に参与観察などを行う。(週3日×1日5時間=15時間)</p> <p>第2週 主として異校種における教職員の活動について参与観察を行う。(週3日×1日5時間=15時間)</p> <p>第3週 主として異校種における教員集団の動き、学校運営の仕組みについて参与観察を行う。(週3日×1日5時間=15時間)</p> <p>第4週 包括的な観点から異校種の理解を深める。(週3日×1日5時間=15時間)</p> <p>事後指導 大学において、異校種実習における学習内容について相互に検討し、報告書を作成する。(6時間)</p> <p>(2 岩永 定) 教育行政学に関する研究成果に基づいて、学校の自主性及び学校・家庭・地域の連携に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(1 佐古 秀一) 教育経営学に関する研究成果に基づいて、新しい校内研修内容・方法の構築等に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(10 芝山 明義) 教育社会学に関する研究成果に基づいて、人材育成、教員研修に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(13 兼松 儀郎) 学校教育及び教育行政に関する実務経験に基づいて、学校と教育行政との連携に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(14 大西 宏) 学校安全・危機管理に関する実務経験に基づいて、生徒指導等における学校の危機管理に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(18 久我 直人) 指導主事並びに管理主事の実務経験に基づいて、学校の組織とマネジメントに関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(11 山下 一夫) カウンセリング及び生徒指導に関する研究成果に基づいて、生徒指導・教育相談体制に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(5 小坂 浩嗣) 教育臨床心理学に関する研究成果及び学校臨床経験に基づいて、外部機関との連携、協働体制に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(19 佐藤 亨) 非行臨床に関する実務経験に基づいて、外部専門機関との連携構築等に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(20 末内 佳代) 学校臨床心理学に関する研究成果及び学校臨床経験に基づき、発達障害に関わる問題行動への組織的対処に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(4 小野瀬 雅人) 授業心理学の研究成果に基づき、教材教具の組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(12 西村 公孝) 教科教育学(社会科)に関する研究成果及び教職経験に基づき、カリキュラム・教材の組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(3 村川 雅弘) 教育課程論に関する研究成果に基づき、学校カリキュラム開発、総合的な学習の時間の単元についての組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(7 川上 綾子) 認知心理学・教育工学に関する研究成果に基づき、学習評価等に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(15 廣瀬 隆司) 学校現場における実務経験に基づき、教科等の単元・教材開発に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(21 香西 武) 教科指導に関する豊富な実務経験に基づき、授業改善や反省的实践に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習科目 学校・学級経営コース 学校臨床実践コース 授業実践・カリキュラム開発コース	課題解決実習	<p>「課題分析実習」の成果をもとに、課題の改善方略を、さらに実践的有効性、実行可能性の観点から精緻化し、その実践と評価を行う。学生のテーマ(課題)ごとに、実習期間の異なるグループに区分する。2年次10月から4週間行うグループと、11月から4週間行うグループに区分し、それぞれ実習期間中、週5日の実習を行う。実習生は、毎日実習校を訪問し、事前の計画に沿って、学校課題の解決のための実践、評価を行う。</p> <p>(2 岩永 定) 教育行政学に関する研究成果に基づいて、学校の自主性及び学校・家庭・地域の連携に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(1 佐古 秀一) 教育経営学に関する研究成果に基づいて、新しい校内研修内容・方法の構築等に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(10 芝山 明義) 教育社会学に関する研究成果に基づいて、人材育成、教員研修に関して理論的視点から実習の指導を行う。</p> <p>(13 兼松 儀郎) 学校教育及び教育行政に関する実務経験に基づいて、学校と教育行政との連携に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(14 大西 宏) 学校安全・危機管理に関する実務経験に基づいて、生徒指導等における学校の危機管理に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(18 久我 直人) 指導主事並びに管理主事の実務経験に基づいて、学校の組織とマネジメントに関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(11 山下 一夫) カウンセリング及び生徒指導に関する研究成果に基づいて、生徒指導・教育相談体制に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(5 小坂 浩嗣) 教育臨床心理学に関する研究成果及び学校臨床経験に基づいて、外部機関との連携、協働体制に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(19 佐藤 亨) 非行臨床に関する実務経験に基づいて、外部専門機関との連携構築等に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(20 末内 佳代) 学校臨床心理学に関する研究成果及び学校臨床経験に基づき、発達障害に関わる問題行動への組織的対応に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(4 小野瀬 雅人) 授業心理学の研究成果に基づき、教材教具の組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(12 西村 公孝) 教科教育学(社会科)に関する研究成果及び教職経験に基づき、カリキュラム・教材の組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(3 村川 雅弘) 教育課程論に関する研究成果に基づき、学校カリキュラム開発、総合的な学習の時間の単元についての組織的開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(7 川上 綾子) 認知心理学・教育学に関する研究成果に基づき、学習評価等に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(15 廣瀬 隆司) 学校現場における実務経験に基づき、教科等の単元・教材開発に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(21 香西 武) 教科指導に関する豊富な実務経験に基づき、授業改善や反省的実践に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習 特別コース	教員養成 授業熟達実習	<p>1年次の10月から5週間の実習を通して、授業構成、展開、評価に関する力量の向上を目指す。週3日、1日6時間、実習実施担当者のクラスを中心に、国語、社会、算数、理科から2教科、音楽、図工、体育から1教科選択し、その教科の授業展開を学級担任と相談しながら作成し、一定期間後、その授業の展開、評価を行う形へと発展させる。実習中は学生を2人1グループ（パディシステム）とし、それぞれ授業を記録しながら、相互に指導助言しあうことで協働性の構築を目指す。「授業熟達実地演習」と並行して行い、授業力の向上と、理論と実践の統合を目指す。</p> <p>実習先は、鳴門市内の連携協力校である。 各週、次の通り進める予定である。</p> <p>第1週 音楽、図工、体育の中から1教科選択し、授業の計画を立てる。 第2週 上記教科の実践を行い、リフレクションを行う。 第3週 国語、社会、算数、理科の中から2教科選択し、授業の計画を立てる。 第4～5週 上記教科の実践を行い、リフレクションを行う。</p> <p>（6 山田 芳明） 教育実践学に関する研究成果及び小学校教員としての実務経験に基づいて、図画工作などの授業開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>（8 葛上 秀文） 生徒指導、学級社会学に関する研究成果に基づいて、生徒指導の課題に対する組織的対応に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>（9 藤原 伸彦） 認知心理学に関する研究成果及び実地教育に関する指導経験に基づいて、児童理解に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>（17 豊成 哲） 授業研究を通して豊富な実務経験に基づいて、学級経営方針の確立に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>（16 木下 光二） 授業研究、幼小連携に関する豊富な実務経験に基づいて、幼小連携のカリキュラム開発などに関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>（22 岩久保 和義） 校長としての豊富な実務経験に基づいて、学校組織等の活用に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習 科目	教員養成特別コース 学級経営基礎実習	<p>1年次の11月から、5週間の実習を通して、学級担任として必要な学級経営の力量の向上を目指す。週3日、1日6時間、授業熟達実習で配属された学級に継続して関わる。実習生は朝の会や終わりの会、特別活動の時間を通して、学級経営に必要な要素について体験的に学ぶ。また、生徒指導上の課題について、学級担任の指導を受けながら、その対処に当たることとする。実習に関するリフレクションは、並行して開講される「学級経営実地演習」で行い、学級経営力の向上と実践と理論の統合を目指す。</p> <p>実習先は、鳴門市内の連携協力校である。 各週、次の通り進める予定である。</p> <p>第1～2週 特別活動の時間を通して、学級経営に当たる。 第3～4週 日々起こる問題に対して、メンターの指導を受けながらその対応に当たる。 第5週 これまで作成した記録などを参考に、全児童の仮の通知表を作成する。</p> <p>(6 山田 芳明) 教育実践学に関する研究成果及び小学校教員としての実務経験に基づいて、図画工作などの授業開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(8 葛上 秀文) 生徒指導、学級社会学に関する研究成果に基づいて、生徒指導の課題に対する組織的対応に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(9 藤原 伸彦) 認知心理学に関する研究成果及び実地教育に関する指導経験に基づいて、児童理解に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(17 豊成 哲) 授業研究を通して豊富な実務経験に基づいて、学級経営方針の確立に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(16 木下 光二) 授業研究、幼小連携に関する豊富な実務経験に基づいて、幼小連携のカリキュラム開発などに関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(22 岩久保 和義) 校長としての豊富な実務経験に基づいて、学校組織等の活用に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習 教員養成 特別コース	児童理解実習	<p>1年次12月から、5週間の実習を通して、小学校低、中、高学年のそれぞれの児童の実態を理解するとともに、異校種である中学校の観察に赴き、子どもの発達の多様さについて理解する。実習は週3日、1日6時間で行う。第1週が低学年、第2週が中学年、第3週が高学年、第4週が公立中学校で実習を行い、第5週は、再度訪問したい学年を決定し、集中的に観察を行う。実習に関してのリフレクションは、並行して開講される「児童理解実地演習」で行い、児童理解力の向上と実践と理論の統合を目指す。</p> <p>各週、次の通り進める予定である。</p> <p>第1週 低学年のクラスに入り、児童の様子について記録し、児童の特徴を理解する。 第2週 中学年のクラスに入り、児童の様子について記録し、児童の特徴を理解する。 第3週 高学年のクラスに入り、児童の様子について記録し、児童の特徴を理解する。 第4週 異校種である中学校に入り、生徒の様子について記録し生徒の特徴を理解する。 第5週 これまでの中から、再度観察する学年を決め、児童の特徴についてレポートを作成する。</p> <p>(6 山田 芳明) 教育実践学に関する研究成果及び小学校教員としての実務経験に基づいて、図画工作などの授業開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(8 葛上 秀文) 生徒指導、学級社会学に関する研究成果に基づいて、生徒指導の課題に対する組織的対応に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(9 藤原 伸彦) 認知心理学に関する研究成果及び実地教育に関する指導経験に基づいて、児童理解に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(17 豊成 哲) 授業研究を通して豊富な実務経験に基づいて、学級経営方針の確立に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(16 木下 光二) 授業研究、幼小連携に関する豊富な実務経験に基づいて、幼小連携のカリキュラム開発などに関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(22 岩久保 和義) 校長としての豊富な実務経験に基づいて、学校組織等の活用に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習 養成 特別 コース	教員 養 成 特 別 コ ー ス 学級経営実践実習	<p>新学期が始まる2年次4月から4週間の実習を通して、学級担任が学級をどのようにつくりあげていくか、学級担任の補助をしながら観察する。週4日、1日8時間の実習を行う。この実習から2人グループを解消し、1校に1人ずつ、1年次とは別の連携協力校に配属する。新たな連携協力校には、この後の「総合インターンシップ」を通してほぼ1年間関わることとなる。1年次の実習をふまえ、学級の児童理解、授業の補助、特別活動の補助などを行う。また、1学期に行われる懇談などにも参加させてもらい、保護者への対応の仕方についても学べるようにする。実習についてのリフレクションは、並行して開講される「学級経営実践演習」で行い、総合的な学級経営力の向上と実践と理論の統合を目指す。</p> <p>実習先は、鳴門市内の連携協力校である。 実習の基本的流れは、以下の通りである。</p> <p>第1週 配属学級の児童の特徴を理解し、それをポートフォリオにまとめる。 第2週 学級担任の指導の下、配属学級の児童の日常の指導に関わる。 第3週 学級担任の指導の下、学級活動を担当する。 第4週 配属学級において、一つの単元を決め、実際に授業を行う。</p> <p>(6 山田 芳明) 教育実践学に関する研究成果及び小学校教員としての実務経験に基づいて、図画工作などの授業開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(8 葛上 秀文) 生徒指導、学級社会学に関する研究成果に基づいて、生徒指導の課題に対する組織的対応に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(9 藤原 伸彦) 認知心理学に関する研究成果及び実地教育に関する指導経験に基づいて、児童理解に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(17 豊成 哲) 授業研究を通して豊富な実務経験に基づいて、学級経営方針の確立に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(16 木下 光二) 授業研究、幼小連携に関する豊富な実務経験に基づいて、幼小連携のカリキュラム開発などに関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(22 岩久保 和義) 校長としての豊富な実務経験に基づいて、学校組織等の活用に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習 特別コース	教員養成 総合インターンシップ	<p>2年次1月から、5週間の実習を通して、児童理解、授業構成・展開・評価、年間を見通した学級経営、保護者との対応に関して、教員として必要な力量に到達しているか最終確認するとともに、今後の教職専門性の基盤となる能力を修得するため、各自が到達目標を定め、実習を行う。実習は週3日、1日6時間である。実習に関するリフレクションは、並行して開講される「実践課題探求」で行い、教員としての総合的な実践力と理論的基盤を修得する。</p> <p>第1週 学級担任と相談の下、詳細なポートフォリオをまとめる 児童3名を抽出し、作成する。 第2週 単元を一つ定め、授業計画を立て、実践する。 第3週 先週の実践を踏まえ、授業計画を改善し、再度実践する。 第4週 新年度に向けての学級経営計画を策定する。 第5週 自ら得意とするところを定め、実践課題探求の発表会で実践する。</p> <p>(6 山田 芳明) 教育実践学に関する研究成果及び小学校教員としての実務経験に基づいて、図画工作などの授業開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。 (8 葛上 秀文) 生徒指導、学級社会学に関する研究成果に基づいて、生徒指導の課題に対する組織的対応に関して理論的観点から実習の指導を行う。 (9 藤原 伸彦) 認知心理学に関する研究成果及び実地教育に関する指導経験に基づいて、児童理解に関して理論的観点から実習の指導を行う。 (17 豊成 哲) 授業研究を通して豊富な実務経験に基づいて、学級経営方針の確立に関して実務的観点から実習の指導を行う。 (16 木下 光二) 授業研究、幼小連携に関する豊富な実務経験に基づいて、幼小連携のカリキュラム開発などに関して実務的観点から実習の指導を行う。 (22 岩久保 和義) 校長としての豊富な実務経験に基づいて、学校組織等の活用に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実習 特別コース	教員養成 総合インターンシップ	<p>学級経営実践演習と総合インターンシップの間、2年次5月から15週間、週3日、1日6時間、実習を行う。学級に長期に関わることで、児童の成長や教員としての仕事の流れを連続的にとらえながら、児童理解、授業構成・展開・評価、学級経営、保護者との対応に関して、多様な場面に対応できる力量を修得するとともに、学級担任と同じ校務分掌を体験することで、学校経営に必要な力量を修得する。実習に関するリフレクションは、並行して開講される学級経営実践演習で行う。</p> <p>この実習は、2年次の中核的な実習として位置づけるが、長期にわたる実習のため、科目履修に問題があると判断された場合、履修させず、大学において補習的な取り組みを行うこととする。そのために、選択科目とした。</p> <p>実習先は、鳴門市内の連携協力校である。 実習の基本的流れは、以下の通りである。</p> <p>第1～5週 学級担任と相談の下、教科を定め、指導の補助に当たる。 第6～10週 これまでの教科の指導を、主導的な立場で実践する。 第11～15週 学級経営上の様々な課題に、学級担任の指導の下、解決に向けて実践する。</p> <p>(6 山田 芳明) 教育実践学に関する研究成果及び小学校教員としての実務経験に基づいて、図画工作などの授業開発に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(8 葛上 秀文) 生徒指導、学級社会学に関する研究成果に基づいて、生徒指導の課題に対する組織的対応に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(9 藤原 伸彦) 認知心理学に関する研究成果及び実地教育に関する指導経験に基づいて、児童理解に関して理論的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(17 豊成 哲) 授業研究を通して豊富な実務経験に基づいて、学級経営方針の確立に関して実務的観点から実習の指導を行う。</p> <p>(16 木下 光二) 授業研究、幼小連携に関する豊富な実務経験に基づいて、幼小連携のカリキュラム開発などに関して実務的観点から実習の指導を行う。</p>	